

NLOP

C AUTOMOTIVE



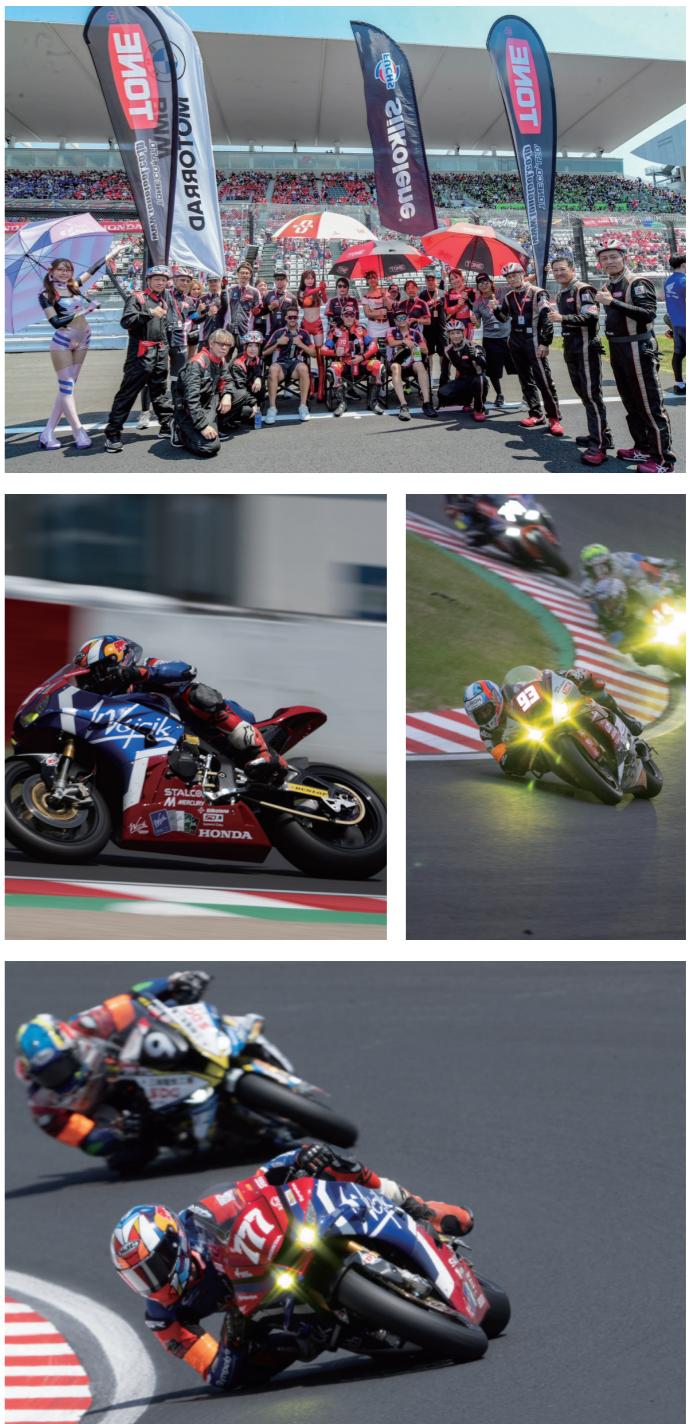
2025

モータースポーツ ニュース

MOVING YOUR WORLD

LUBRICANTS.
TECHNOLOGY.
PEOPLE.





鈴鹿 8 耐

Silkolene サポートチーム 全員完走、シード権を獲得

今年の鈴鹿 8 耐では、Silkolene がサポートする 3 チームが全て完走という素晴らしい結果を残した。DOG HOUSE & TRIPPOINT FUCHS Silkolene は現行ルールになって以来、初のシード権を獲得。個人チームとしての挑戦が、確かな成果へとつながった。

昨年度クラス優勝を果たした TONE Team 4413 EVA 02 BMW。惜しくも

2 連覇は逃したが、堂々のクラス 2 位。安定した走りとチーム力が光った。Wójcik Racing Team #777 SST は新しいメンバー構成で挑み、見事に完走。チームの柔軟性と結束力で 8 時間を乗り越えた。

それぞれのチームが異なる背景と戦略を持ちながら、8 時間という過酷なレースを走り切り、見事チェックターを受けた 2025 年度。そしてまた来年、この 3 チームは鈴鹿の舞台で新たなドラマを生み起しそうが約束されている。

TONE Team 4413 EVA 02 BMW マシン : BMW M1000RR/ チーム使用オイル :
FUCHS Silkolene Pro 4 Plus
Wójcik Racing Team #777 SST マシン : Honda CBR1000RR/ チーム使用オイル :
FUCHS Silkolene Pro 4 Plus





鈴鹿 8 耐

Silkolene サポートチーム 全員完走、シード権を獲得

個人チームとして 8 耐に挑み続ける DOG HOUSE & TRIPONT FUCHS Silkolene。FUCHS Silkolene と 8 耐を走り始めてから 3 年目となる。初年度の完走から始まり、昨年度はプライベーターの壁とも言われている 200 周

を突破。そして、今年は総合 27 位、EWC クラス 18 位でチェッカーを受けた。この素晴らしい結果により、現行ルールになって以来、初のシード権を獲得。努力が着実に結果として現れている。

チームの結果は総合 32 位、ラップ数はプライベーターの壁とも言われている 200 周を突破した。

「あの暑さの中の耐久レースはサバイバルゲームだった」と岩谷選手は振り返る。例年、その苛烈さを増す酷暑の中で、プロチームですら転倒、リタイアが目立った。選手たちは「まずは無事に終わって安心」と口を揃える。「タイヤが削れていくにつれて跳ねる拳動があり、ペースを上げづらかった。サスペンションの硬さで調整していくが、交代時に伝えて調整する時間はない。ひとまず次のライダーに伝えて、その後メカニック達に伝える。つまり、都度 1 スティントごしの調整だった」と岩谷選手。ライダーのテクニックとチームの連携が繋いだ完走であった。

「とにかくしんどかった」としつつも「みんな無事に走り切れて嬉しい」と素直な心境を述べた左村選手。大須賀選手は「完走できたのは嬉しい。自分は

まだまだ速くなる必要があると思った。もっと練習を重ねて、技術を磨きたい」と前向きなコメントを寄せた。





6 フータースポーツニュース 2025年

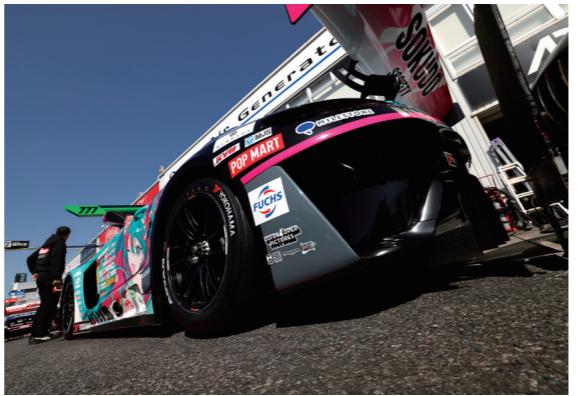


マシン：SUZUKI GSX-R1000R
使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS



フックスジャパン株式会社

7



SUPER GT GOODSMILE RACING タイトルに一歩届かず 速さを示しチームランキング3位

GT300を走るGOODSMILE RACING & TeamUKYO。2025シーズンはチームランキング3位・ドライバーランキング5位という結果でトップチームとしての存在感を示した。

開幕戦岡山では2年ぶりポールポジションを獲得。決勝ではウェットコンディションに翻弄されるも4位の好発進であった。第3戦のセパンではスパ24時間参戦で不在の谷口・片岡コンビの代わりの中山友貴選手、奥本隼士選手が見事にレースを魅せた。終盤の激しいバトルを制し、3位表彰台を獲得。チーム力の高さを証明した。その後も上位で激しいタイトル争いを繰り広げ、チームランキング首位を守りながら、ライバルチームとはポイント僅差で迎えた最終戦。予選6位から決勝8位でフィニッシュするも、ライバル勢が上位に入り、惜しくもチームタイトルを逃した。

2025年のGOODSMILE RACINGは、開幕戦ポール獲得やセパンでの代役表彰台など、見どころの多いシーズンを展開。タイトルにはあと一歩届かなかったが、速さと粘り強さを示し、ファンを魅了した一年だった。さらに、スパ24時間など国内外での活動を広げた一年でもあり、ファンとの絆をさらに深める取り組みでモータースポーツ界を盛り上げた。

マシン：AMG GT3

チーム 使用オイル：FUCHS TITAN SUPERSYN Longlofe, SINTOPOID LS, FRICOFIN DP



SUPER GT PONOS RACING 挑戦の一年、次への布石



SUPER GT GT300 クラスを始め、様々なカテゴリーに挑戦を続ける PONOS RACING、今年度は Ferrari 296 GT3 で挑んだ2年目のシーズンだった。年間結果はチームランキング 14 位と課題は残るが、鈴鹿での 4 位や富士でのトップ 10 入りなど、随所に躍進を感じさせる走りで注目を集めた。今年度推進した独特なカラーリングと Ferrari ならではの流麗なフォルムが際立ち、SUPER GT の中でもひときわスタイリッシュな存在感を放つ。PONOS RACING は、サーキットに新しい風を吹かせ、ファンを魅了している。

マシン：FERRARI 296 GT3
チーム使用オイル：FUCHS TITAN RACE PRO S, SINTOPOID LS, FRICOFIN DP

鈴鹿サンデーロードレース 得意の雨で堂々ポイント獲得



鈴鹿サンデーロードレースのシーズンファイナルが 11 月 9 日、NGK 杯として開催された。秋晴れの予選から一転、本戦は激しい雨に見舞われた。ライダー達の技量がより試されるウェットコンディションで、FUCHS Silkolene がサポートする左村選手が魅せた。雨と水しぶきで視界が奪われ、多くのライダーは慎重な走りを見せたが、コースを熟知する鈴鹿のベテランは猛進。愛称である「サミー」のコールの中、7 位でチェッカーを受け、ポイント獲得となった。予選 18 位から順位を上げる姿は、会場を湧かせた。

マシン：SUZUKI GSX-R1000R
使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS

LUBRICANTS.
TECHNOLOGY.
PEOPLE.
FUCHS



フックスジャパン株式会社
〒105-0001
東京都港区虎ノ門5丁目12-1
虎ノ門ワイコビル 5F
Phone: (03) 3436 8303
Fax: (03) 3436 8301
Mail: info.jp@fuchs.com
<https://www.fuchs.com/jp/ja/>

HP:



Instagram:



Facebook:

